

Y09a 岡山 188cm 望遠鏡ニュートン焦点撮像乾板カタログの公開

柳澤顕史 (国立天文台), 古荘玲子 (都留文科大学), 根本しおみ, 春日敏則, 土屋智恵, 長山省吾, 中桐正夫 (国立天文台), 石村周平 (元・茨城大学), 渡部潤一 (国立天文台)

このたび国立天文台・写真乾板ワーキンググループは、旧・岡山天体物理観測所 188cm 望遠鏡 ニュートン焦点で取得された撮像乾板カタログを次の URL より公開したので報告する。 https://prc.nao.ac.jp/prc_arc/okayama/

本カタログは、ニュートン焦点で取得されたすべての乾板 4836 枚の観測メタ情報と、3665 枚のスキャン画像で構成されている。観測メタ情報は、乾板属性をあらわす 9 種類 20 項目 (乾板 ID、天体名、観測時刻、露出時間、フィルター、乳剤ほか) よりなる。原典は観測野帳であり、乾板保管封筒の記述やスキャン画像と照合済である。スキャン画像は、乾板を指定解像度 2400 ppi にて取り込んだ透過画像である。スキャン画像にはサイズの異なる 2 種類がある。これは、ニュートン焦点 (F/4.9, 22.5 arcsec/mm) においてサイズの異なる 2 種類の写真乾板が使用されたことに由来する。ひとつは手札サイズ (82×119 mm) で視野は 31×45 分角、他方は大角サイズ (160×160 mm) で視野は 1×1 度角である。両者はシリーズ名で区別されており、前者は NS、後者は NL である。NS シリーズはコマ収差の影響が無視できる視野中心付近の観測に使用され、主な対象は、系外銀河、星団、星雲、であった。一方 NL シリーズは、コマ収差補正レンズを併用して広視野を必要とする観測に使用され、彗星や小惑星などの位置観測や、未同定天体の搜索に利用された。1966 年のさそり座 X-1 の光学同定成功は、NL シリーズの特筆すべき観測成果のひとつである。

本事業は、科研費研究成果公開促進費「岡山天体物理観測所天体写真乾板データアーカイブ」(課題番号:18HP7003、代表:渡部潤一) の支援を受けて実施された。